20013

緊急心臓カテーテル治療をより早く実施するための連携システム～緊急外来からの直入～

[1]一宮市立市民病院

武田　麻寿美[1]、名川　美紀[1]、塚本　有香[1]、水谷　律子[1]

【目的】当院は人口５０万人強の尾張西部医療圏で３次救急を担っている。心筋梗塞等の緊急心臓カテーテル検査・治療は年間１６４件であり、多職種とも連携し、仕組みを作り緊急を要するすべての治療に対応できる。【方法】１．２４時間タイムリーに対応するため、院内ＩＣＵの看護師が心臓カテーテル室を担当する。２．救急外来は緊急対応できる救急ＩＣＵ・ＨＣＵ、外来の看護師が担当する。３．緊急心臓カテーテルを実施するために必要なメンバー５名（医師２名、看護師１名、臨床工学技士１名、放射線技師１名）を１チームとする。４．緊急心臓カテーテル室は救急外来からの直入とし、検査結果で入院先の病棟を決定する。５．緊急対応ができるME機器や診療材料などの整備をする。【結果】心筋梗塞等の所見があり心臓カテーテル検査が必要と診断された場合、早急に対応するため３０分以内で入室できるよう多職種で連携している。また、心臓停止の患者が搬送される場合は、救急外来から事前連絡が入り救急隊とともに心臓カテーテル室に直入している。患者が早期に危機的状況を回避または離脱できるよう、ＰＣＰＳ、ＩＡＢＰの装着などチームで役割を分担して治療処置を進める中で、看護師は患者・家族の対応を引き受けている。【まとめ】患者の緊急対応をいち早くするためには、チームでの情報共有が重要である。チーム内での役割分担が危機的状況の患者対応をスムーズにし、より有効な治療・看護に繋がると考える。